



【1】公安警察による国家犯罪こそが本質だ

9月28日、30日に、全学連の4人の仲間が「監禁致傷」なる容疑で公安警察によって逮捕されました。さらに東北大、京都大、広島大など闘う自治会、寮、サークルなどに不当捜索が行われ、マスコミがこぞって「過激派」キャンペーンを連日行っています。

「被害者」とされる元福島大生・樋口正太郎は約3年にわたって私たち全学連にスパイとして潜り込み、その情報を公安警察に売り渡して数十万～百万円規模の金銭を受け取り、酒食・享楽に換えていた男です。そのことが発覚し、追及されて逃走、そして自ら前進社から落下して怪我を負ったことが今回「犯罪」とされているのです。「監禁」「致傷」など100%でっち上げです。

3・11原発事故以降、多くの人々が「もうだまされない」「生きさせろ」と立ち上がっていく中、樋口は福島大生であることを利用して自らの欲望のために他人をだまし、売り渡していたのであり、一個の人間として最低の行為です。しかもスパイ行為が発覚したにも関わらず開き直り、公安警察と一体で今回の弾圧に「被害者」として加担しているのです。



しかしながらもちろん、もっとも許せないのは公安警察です。カネ・モノで人間を墮落させ、自らの先兵として利用する。札束でほったたけをひっぱたいて言うことを聞かせる手法との対決は、あらゆる社会運動が立ち向かわざるをえない闘いです。

弾圧は戦争法強行採決と完全に一体の攻撃です。京大同学会委員長の作部君は戦争法強行採決と4名不当逮捕に対して、京大で10月反戦ストライキに決起すると宣言しました。こうした現場からの闘いが戦争を止め弾圧を打ち破る最大の力です。



全日本学生自治会総連合(委員長・斎藤郁真)

03-3651-4861 mail_cn001@zengakuren.jp http://www.zengakuren.jp

【2】戦争反対の声をつぶす見せしめの弾圧だ！

今年5月～9月、安倍政権による安保関連法（戦争法）の成立をめぐる、歴史的な民衆の決起が巻き起こりました。8月30日には、安保法成立に反対して国会前に12万人～全国で100万人が立ち上がる巨大な行動に発展。7月末といわれた安保法の成立はずると延長していきました。9月16日を頂点として、「なんとしても止める」という怒りが爆発、機動隊の阻止線と激突する闘いにまで発展しました。9月13日～19日までの一週間だけで不当逮捕された人の数は25名にまでのぼりました（全員不起訴奪還）。私たち全学連もこの闘いの先頭に立って闘いました。

今回の弾圧は、安倍政権の戦争政治に怒る労働者民衆の怒りを叩きつぶすための見せしめの弾圧です。この運動が発展すれば、本当に実力で安倍政権が打倒されてしまう、公安警察・国家権力はその恐怖で5ヶ月以上も前のスパイ摘発・追放を「監禁」とおどろおどろしく演出し、「事件」にしようとしているにすぎません。

今、SEALDs（自由と民主主義のための学生緊急行動）中心メンバーなど一部の勢力が「警察ありがとう」などと述べ、「逮捕されたやつは『過激派』」「迷惑だ」などと主張し、人々の怒りを貶めています。まさしくこのような弾圧に立ち向かえなかったからこそ、かつて多くの人々が戦争に動員され、他国の人々と殺しあわされたんじゃないのか。

国家権力の圧力に屈服し、媚びへつらう偽りの「反戦運動」をこえて、かつて戦争に加担させられてしまった歴史をのりこえるべきときです。

【3】今こそ戦争反対のゼネラルストライキへ！

この秋、全学連は全国大学での戦争反対を掲げたストライキに挑戦します。「武器の研究・生産・流通・使用」そのすべてを実際に担うのは安倍政権ではなく、労働者・学生・市民です。「戦争をやらない」という決定権は最後まで私たちの側にあります。

だからこそ今、安倍政権の戦争政治の下、大学や労働現



採決間近（16日夜）、スクラムを組み、機動隊と激突するデモ隊



国会正門前を封鎖する機動隊とスクラムを組んで対峙する全学連 9月16日夜

場での戦争動員政策が強まっています。大学においては、学生の貧困につけこんだ「経済的徴兵制」、巨額の補助金による「軍事研究」、「文系学部の廃止・目的の見直し」が進められています。労働現場においては、たとえば自治体職員は高校生の名簿を防衛省に提供し、そのデータに基づいて自衛隊が全国の高校生に勧誘メールを送るということが行われています。「仕事」「授業」・・・当たり前の日常が戦争協力そのものになろうとしています。

今、ほとんどの大学では政治的なビラまきは禁止され、学生の政治活動の自由は禁圧されており、「単位・就活・奨学金」の縛りは学生から政治活動に関わる余裕を奪っています。私たち全学連は、このような大学の現実に立ち向かい、法政大学を先頭に多くの逮捕者・処分者を出しながら闘ってきました。

そして全国で学生自治会の再建に挑戦しながら、昨年には京都大学で学内に侵入し、学生の反戦運動を監視していた公安警察を摘発・追放する行動を実現しました。冒頭のべたとおり、私たちは今こそすべてをかけて大学からストライキを復権する決意です。そのために今回の政治弾圧を打ち破る決意です。ぜひ、共に声を上げてください！

「憲法違反の強行採決＝クーデター」に対し、「ゼネラルストライキ＝革命」で安倍政権を倒そう！

4人の仲間をただちに取り戻そう！



昨年11月、京大での公安摘発・追放

〇4名奪還への

救援カンパにご協力を！〇

獄中への差し入れや弁護士接見など、多額の費用がかかります。ぜひとも、救援カンパを寄せてください！

（郵便振替）00190-0-766112

「全日本学生自治会総連合」



【1】公安警察による国家犯罪こそが本質だ

9月28日、30日に、全学連の4人の仲間が「監禁致傷」なる容疑で公安警察によって逮捕されました。さらに東北大、京都大、広島大など闘う自治会、寮、サークルなどに不当捜索が行われ、マスコミがこぞって「過激派」キャンペーンを連日行っています。

「被害者」とされる元福島大生・樋口正太郎は約3年にわたって私たち全学連にスパイとして潜り込み、その情報を公安警察に売り渡して数十万～百万円規模の金銭を受け取り、酒食・享楽に換えていた男です。そのことが発覚し、追及されて逃走、そして自ら前進社から落下して怪我を負ったことが今回「犯罪」とされているのです。「監禁」「致傷」など100%でっち上げです。

3・11原発事故以降、多くの人々が「もうだまされない」「生きさせろ」と立ち上がっていく中、樋口は福島大生であることを利用して自らの欲望のために他人をだまし、売り渡していたのであり、一個の人間として最低の行為です。しかもスパイ行為が発覚したにも関わらず開き直り、公安警察と一体で今回の弾圧に「被害者」として加担しているのです。



しかしながらもちろん、もっとも許せないのは公安警察です。カネ・モノで人間を墮落させ、自らの先兵として利用する。札束でほったたけをひっぱたいて言うことを聞かせる手法との対決は、あらゆる社会運動が立ち向かわざるをえない闘いです。

弾圧は戦争法強行採決と完全に一体の攻撃です。京大同学会委員長の作部君は戦争法強行採決と4名不当逮捕に対して、京大で10月反戦ストライキに決起すると宣言しました。こうした現場からの闘いが戦争を止め弾圧を打ち破る最大の力です。



全日本学生自治会総連合(委員長・斎藤郁真)

03-3651-4861 mail_cn001@zengakuren.jp http://www.zengakuren.jp

【2】戦争反対の声をつぶす見せしめの弾圧だ！

今年5月～9月、安倍政権による安保関連法（戦争法）の成立をめぐる、歴史的な民衆の決起が巻き起こりました。8月30日には、安保法成立に反対して国会前に12万人～全国で100万人が立ち上がる巨大な行動に発展。7月末といわれた安保法の成立はずると延長していきました。9月16日を頂点として、「なんとしても止める」という怒りが爆発、機動隊の阻止線と激突する闘いにまで発展しました。9月13日～19日までの一週間だけで不当逮捕された人の数は25名にまでのぼりました（全員不起訴奪還）。私たち全学連もこの闘いの先頭に立って闘いました。

今回の弾圧は、安倍政権の戦争政治に怒る労働者民衆の怒りを叩きつぶすための見せしめの弾圧です。この運動が発展すれば、本当に実力で安倍政権が打倒されてしまう、公安警察・国家権力はその恐怖で5ヶ月以上も前のスパイ摘発・追放を「監禁」とおどろおどろしく演出し、「事件」にしようとしているにすぎません。

今、SEALDs（自由と民主主義のための学生緊急行動）中心メンバーなど一部の勢力が「警察ありがとう」などと述べ、「逮捕されたやつは『過激派』」「迷惑だ」などと主張し、人々の怒りを貶めています。まさしくこのような弾圧に立ち向かえなかったからこそ、かつて多くの人々が戦争に動員され、他国の人々と殺しあわされたんじゃないのか。

国家権力の圧力に屈服し、媚びへつらう偽りの「反戦運動」をこえて、かつて戦争に加担させられてしまった歴史をのりこえるべきときです。

【3】今こそ戦争反対のゼネラルストライキへ！

この秋、全学連は全国大学での戦争反対を掲げたストライキに挑戦します。「武器の研究・生産・流通・使用」そのすべてを実際に担うのは安倍政権ではなく、労働者・学生・市民です。「戦争をやらない」という決定権は最後まで私たちの側にあります。

だからこそ今、安倍政権の戦争政治の下、大学や労働現



採決間近（16日夜）、スクラムを組み、機動隊と激突するデモ隊



国会正門前を封鎖する機動隊とスクラムを組んで対峙する全学連 9月16日夜

場での戦争動員政策が強まっています。大学においては、学生の貧困につけこんだ「経済的徴兵制」、巨額の補助金による「軍事研究」、「文系学部の廃止・目的の見直し」が進められています。労働現場においては、たとえば自治体職員は高校生の名簿を防衛省に提供し、そのデータに基づいて自衛隊が全国の高校生に勧誘メールを送るということが行われています。「仕事」「授業」・・・当たり前の日常が戦争協力そのものになろうとしています。

今、ほとんどの大学では政治的なビラまきは禁止され、学生の政治活動の自由は禁圧されており、「単位・就活・奨学金」の縛りは学生から政治活動に関わる余裕を奪っています。私たち全学連は、このような大学の現実に立ち向かい、法政大学を先頭に多くの逮捕者・処分者を出しながら闘ってきました。

そして全国で学生自治会の再建に挑戦しながら、昨年には京都大学で学内に侵入し、学生の反戦運動を監視していた公安警察を摘発・追放する行動を実現しました。冒頭のべたとおり、私たちは今こそすべてをかけて大学からストライキを復権する決意です。そのために今回の政治弾圧を打ち破る決意です。ぜひ、共に声を上げてください！

「憲法違反の強行採決＝クーデター」に対し、「ゼネラルストライキ＝革命」で安倍政権を倒そう！

4人の仲間をただちに取り戻そう！



昨年11月、京大での公安摘発・追放

〇4名奪還への

救援カンパにご協力を！〇

獄中への差し入れや弁護士接見など、多額の費用がかかります。ぜひとも、救援カンパを寄せてください！

（郵便振替）00190-0-766112

「全日本学生自治会総連合」